

平成17年3月卒業

第75期

平成15年秋季～16年夏季



チーム紹介

投手陣の充実が強み

「ようやく失点を計算できるチームに仕上がってきた」と柴田監督。

強みは投手陣が充実してきた点。エースナンバーを背負う右本格派の檜森は球威、球速、球の切れとも非凡で、容易に連打を許さない。さらに、コントロールが持ち味の堀内、ここにきて成長著しい浅野の「三本柱」を擁して本番に臨む。守備もセンターラインを軸に、堅実さを増してきた。

攻撃の要は、俊足の1番・武藤。長打力がある上、小技も得意で、武藤が出塁してクリーンアップでかえすのが得点パターン。

昨年初めて試みた大阪遠征は、今春も実施。強豪相手に6試合をこなし、野球に対する気構えなど精神面に大きなプラス効果をもたらした。これまで実力を出し切れなかったケースが多かっただけに、選手たちは「夏は必ず結果を出す」と意気込んでいる。

◎平成15年

・秋季県北

能代11－1小坂

能代7－0能代商

能代9－2鷹巣

決 勝 能代5－4大館鳳鳴

(2年連続9回目の優勝)

・全県選抜

能代5－8横手工

◎平成16年

・春季県北

能代2－13能代工

・能代選抜

能代7－8大館鳳鳴

・全県大会

能代8－1十和田

能代7－5鷹巣

能代6－9湯沢

能代	2	0	1	0	0	0	0	0	3	6
湯沢	0	3	5	1	0	0	0	0	×	9

(能代) 浅野・檜森－三澤

(湯沢) 小野寺－斉藤

〈部長〉 藤原 孝一

〈監督〉 柴田創一郎

〈部員〉 3年生

◎三浦	規誉	堀内	広大
大山	崇彦	石井	一広
三澤	俊介	藤田	大志
浅野	恭輔	武藤	崇
中山	友裕	工藤	秀行
成田	堯之	水木	寿太
檜森	裕樹		

第76期

平成16年秋季～17年6月



◎平成16年

・秋季県北

能代5－8大館工

◎平成17年

・春季県北

能代6－3大館

能代10－2大館国際

能代3－4能代工

・全県選抜

能代11－0湯沢

能代6－5秋田南

能代2－8秋田商

3位決定戦 能代10－3西目

・東北大会（宮城県）

能代2－8光星学院（青森）

・能代高校80周年記念招待野球

能代2－7羽黒高（山形）

能代0－5秋田商

・能代選抜

能代4－3経法大付

能代1－2鷹巣

〈部長〉藤原 孝一・〈副部長〉石井 勇悦

〈監督〉柴田創一郎・伊藤 康夫

〈部員〉3年生

◎阿部 俊亮 工藤 裕介

米森 卓也 田中 晃一

小柴 広朗 成田 竜功

淡路 淳 渡辺 浩樹

菊地 信哉 石井 勇希

桐越 公紀 大森 啓正

渡部 徳平 中野 光撰

2年生

池田 真臣 工藤 健伍

熊谷 輝 大坂 嘉亮

畠山 翔平 菅原 洋介

北林 佑幸 田村 勇太

佐藤 哲郎 野村 雄大

岡部 恭平 長岡 竜司

桐越謙志朗 三浦 大将

1年生

小山内圭祐 後藤 将司

阿部 大輝 鷺尾 拓也

桂田祐太郎 永沢伸二郎

小松 優也 原田 翔太

埴生 雄大 松田 浩

菅原 淳平

13年ぶり東北切符

畠山完投、小柴が決勝適時打

平均身長170.3cmの選手たちが、大仕事をやってのけた。169cm、61キロの細身の左腕、畠山翔平（2年）が最後の打者を三振に打ち取ると、中野捕手とハイタッチを交わす。初戦、準々決勝に続き、大一番でも最後までマウンドを守り抜いた。

▽第3代表決定戦

能代	1	0	0	4	0	2	0	3	10
西目	1	1	1	0	0	0	0	0	3

（8回コールド）